

新宿区

UD

まちづくり
ニュースレター

Vol.

14

AUTUMN

第14号
2024.09

UDスポット とうきゅうかぶきちょうたわー 東急歌舞伎町タワー

令和5年4月にオープンした東急歌舞伎町タワーは、ホテルと映画館や劇場、ライブホール、ナイトクラブといったエンターテインメント施設からなる超高層複合施設です。歌舞伎町の歴史や文化を受け継ぎ、都市再生特別地区を活用した都市整備が行われました。充実した観光機能と都市観光インフラの整備により、国籍、年齢、性別を問わず、世界中から多様な人々が訪れています。

ニュース第14号では、新宿のまちの多様性を受け入れ、多くの人が快適に過ごすことができる施設を目指す東急歌舞伎町タワーについて、ユニバーサルデザインの考え方が反映された様々なポイントを一緒に探しましょう。

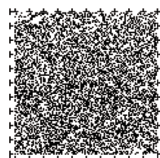
ユニバーサルデザイン

UDとは？

年齢・性別・国籍・個人の能力等にかかわらず、できるだけ多くの人が利用できるよう生活環境その他の環境をつくり上げていく考え方は？

新宿区には、多くの外国人をはじめ、様々な人々が生活しています。区では、移動しやすく、利用しやすく、わかりやすいまちを目指して、令和2年3月にUDまちづくり条例を制定しました。

このニュースレターでは、新宿区の実情や、UDスポットの紹介、利用者の声などをお伝えしていきます。



Uni-Voice

とうきゅう かぶきちょう たわー

東急歌舞伎町タワー

TOKYU KABUKICHO TOWER

UD 探検隊が行く！新宿UDまちづくりスポット

♿A3

入口から段差無くアクセス
できる車いす観覧用スペース

利用者コメント

今回初めて利用しました。学生時代に持っていた新宿のカジュアルなイメージとは異なり、子どもと一緒に、ゆったりと快適に過ごすことができました。
(40代・女性・親子2人組)

運営者コメント

映画館におけるユニバーサルデザインのハード面の整備には限界があるため、特にソフト面での対応に力を入れています。車いす等介助が必要なお客さまには本社でUD研修を受けた社員が対応するほか、外国人のお客さまにも安心してご利用いただけるよう多言語対応可能なスタッフが多く在籍しています。今後は障がい者の方の団体の鑑賞会など、その場にいる皆が気を遣わずに映画を楽しめる空間をつくっていきたくと考えています。

(109シネマズプレミアム新宿)
支配人 古賀 渚さん

入口周辺が光るのが
入場開始の合図

109シネマズプレミアム新宿

入場までゆっくり
くつろげるラウンジ

字幕メガネ装着時の様子

上映中のスクリーンを見ながら、
メガネに字幕を表示できる
「字幕メガネ」

Good
UD
ポイント

みんなが同じように楽しめる映画館

誰もが映画を楽しめるよう、字幕メガネや集団補聴設備、車いすスペースなどの設備を整えています。また、より多くの方に快適にご利用いただけるよう、実技を伴うUD研修を受けた社員がソフト面についても対応します。

HOTEL GROOVE SHINJUKU, A PARKROYAL Hotel



ハンガーラック

空調の
スイッチ

車いすの方でも届く高さ！

トイレ

シャワールーム

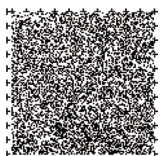
運営者コメント

多様性を追求し続けるホテル

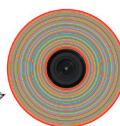
身体が不自由な方にも配慮したバリアフリー用客室、スタッフやホームページ等の多言語対応、「LGBT Friendly Hotels Japan」への加盟、LGBT研修の実施など、多様な人が安心して利用できるような様々な取組が行われています。

当ホテルでは、身体の不自由な方や外国人の方への対応のほか、LGBTQ+に関する取組も行っており、性別の明記が無い方に対して「Mr.」「Mrs.」等を付けない、どんな人数・性別でのお部屋の取り方にも偏見を持たないなど、お客さまの多様性を尊重しています。スタッフも自分の好きな名前を名乗ることができ、髪型やネイルも柔軟に対応しています。今後もこの新宿のまちにふさわしい、多様な人が安心して利用できるホテルを目指していきます。

(HOTEL GROOVE SHINJUKU
広報/ブランドマネジメント 綾部 千佳さん)



Uni-Voice



HOTEL GROOVE
SHINJUKU

A PARTNER OF PARKROYAL HOTELS AND RESORTS
©TOKYU KABUKICHO TOWER

たくさんの色を使い、多様性を
表しているロゴマーク

観賞場所までアクセスしやすい劇場

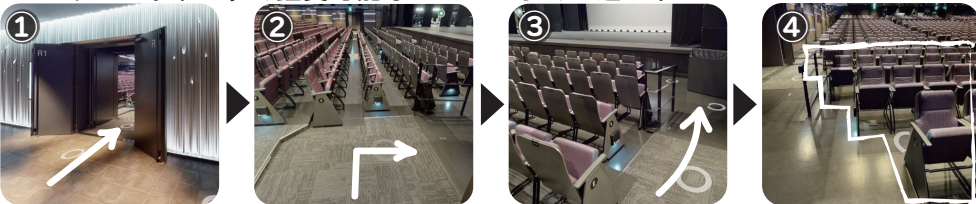
車いすの方や身体が不自由な方は、劇場スタッフが1階のエレベーターホールから劇場までご案内します。また、前から4列目の座席までは、ホワイエから段差なくアクセスすることができます。

THEATER MILANO-Za



補聴器等を介して使用できる
補聴援助機器を備えており
興行主に無償貸出を行っている

ホワイエから車いすで鑑賞可能なスペースまでの道のり



客席を取り外すことで、車いすに乗ったまま鑑賞できるスペースを確保できる

運営者インタビュー

歌舞伎町は、戦後に劇場やダンスホール等を配した「道義的な繁華街」を目指して官民一体で復興計画が立てられ、現在の街の原型が形成されました。東急歌舞伎町タワーは、新宿TOKYU MILANOの跡地に、ホテルと映画館や劇場、ライブホール、ナイトクラブといったエンターテインメント施設からなる超高層複合施設として2023年4月にオープンしました。**タワー周辺には屋外ビジョンや屋外ステージもあり、タワー前のシネシティ広場と一体的に利用することも可能です。**スポーツや映画、音楽に関するイベントや、新たな体験イベントを開催し、タワーとその周辺を含めて新たな体験・文化の発信が可能な賑わい創出の場となることを目指しています。

タワー内においては、各施設でユニバーサルデザインに取り組んでいます。例えば、**THEATER MILANO-Zaでは補聴援助機器（FM送受信機や各種インダクター、骨伝導ヘッドフォン等）をご用意しており、これを興行主様にご活用いただけるよう積極的にご案内しています。**また、**109シネマズプレミアム新宿では字幕メガネの貸出を行っています。**ご利用いただいた方にご満足いただけるよう、設備の用意だけでなく丁寧なご案内などのソフト面についてのご対応も心がけています。また、各施設で外国語対応を行っており、特に海外からのお客様が約8割である**HOTEL GROOVE SHINJUKU, A PARKROYAL Hotel（以下、HOTEL GROOVE SHINJUKU）には日本語、英語、中国語、韓国語、スペイン語、ネパール語、ミャンマー語（ビルマ語）、フィリピン語（タガログ語）、ベトナム語での対応が可能なスタッフが在籍しています。**※

HOTEL GROOVE SHINJUKUでは、バリアフリー用客室以外の客室でも、コンセントやスイッチを車いすの方でも利用しやすい位置に設置しています。また、水回りはデザイン性とバリアフリーの機能性の両立を意識しました。開業直後にはインバウンドのお客様等によるエレベーターの誤操作対策に苦労しましたが、ボタンやカバーを特注制作することで解決し、現在はトラブルが激減しています。

東急歌舞伎町タワーは、大変有難いことに連日国内外問わず老若男女多くのお客様にお越しいただいております。今後もさまざまなお客さまにお楽しみいただける「ホテル × エンタメ」施設として、ご来館いただいたお客さまに快適に過ごしていただけるよう努めてまいります。



東急歌舞伎町タワー
広報担当
井口さん

※時間によっては、対応可能言語が異なる場合がございます。

東急歌舞伎町タワー周辺の様子

屋外ビジョンや屋外ステージがあり、イベント等に活用されています。また、タワー1階・2階部分には東西をつなぐ通路が整備されたほか、周辺の歩行者空間が拡張され、利便性が向上しました。



屋外ビジョン

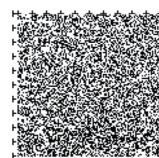


西武新宿駅前通り

利用者コメント

以前と比べて周辺の道路が広がって通行しやすくなったと感じています。駅に近く、タワー内は飲食店を始め様々な施設があるため、様々な目的を持った多くの人が利用できそうだと思います。

（20代・女性）



Uni-Voice



歴史から学ぶ その2 「Mr. Average って誰？」



日本女子大学 建築デザイン学部
建築デザイン学科 助教
(一級建築士・福祉住環境
コーディネーター 1級)
植田瑞昌さん

約50年前、日本に「バリアフリーデザイン」という言葉を広めるきっかけになった国連障害者生活環境専門家会議が刊行したパンフレット「Barrier Free Design (バリアフリーデザイン)」の中で、英国の S. ゴールドスミス氏が寄稿した言葉の和訳をご紹介します⁽¹⁾。(写真1)

「長い歴史の中で建築家はその設計をひたすら、Mr. Average (ミスター・アベレージ) 氏のためにささげてきた。しかしながら、この Mr. Average 氏は統計学の描いた架空の人物であり、実体のないものである。実際の人間はもっと幅広く分布し、この Mr. Average 氏に該当する人は意外にわずかなのである。こうして数年にわたってほとんど人間に合わない建築が設計されてきたが、これが不思議にも使いこなせてきたのはその建築家のデザイン力というよりも人間の底知れない柔軟な適応性に負うところが大きい。」⁽²⁾

身体機能・認知機能が低下した高齢の方や心身に障害のある方にとって、平均的な体格・身体機能で作られた建築に合わせることは困難であることを示しています。

改めて、幅広く分布する「すべての人にとって」

利用しやすい建物やまちにするためには、設計する側にはより柔軟な対応が求められます。

一方で、物理的(ハード面)な環境整備だけでは「すべての人」を網羅することはできないと考えています。ハードとソフトの両面が必要となり、多種多様な使い方と使われ方を理解し、一人でも多くの方が利用しやすい環境となるようにしなければなりません。

そのために、私たち一人一人ができること(ソフト面)を探してみよう。



写真1
「Barrier Free Design」の表紙

参考文献：(1) BARRIER-FREE DESIGN, Report of a United Nations Expert Group Meeting, International REHABILITATION review, 26 No.1, p.1, 1975

(2) 野村歓：「バリアフリーの足跡」日本生活支援工学会誌 Vol.3 No.2, 2004

(今回のコラムは UD に詳しい専門家の方からご寄稿いただきました。)

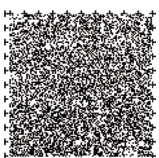
ニュースレターの「バックナンバー」を是非ご覧ください！

これまでの UD まちづくりニュースレター(創刊号～第13号)は、新宿区の HP から PDF ファイルで閲覧できます。新宿区内の公園や広場などの紹介のほか、UD についてのコラムも掲載しています。

新宿区の HP はこちら→



新宿区からのお知らせ



Uni-Voice

新宿区ユニバーサルデザインまちづくりニュースレター 第14号(令和6年9月発行)

お問い合わせ先：新宿区景観・まちづくり課

取材・編集：(株) 苺まちづくり研究所